

2025 年 11 月 13 日

小田急電鉄株式会社

I R 室

2026 年 3 月期 第 2 四半期（中間期）決算に関する F A Q

※ ここでは、当決算について想定される質問と回答を参考として掲載しています。ご不明点等ございましたら、I R 室（03-3349-2526）までお問い合わせください。

Q1. 主な事業の足元の状況は。

当社鉄道事業	改札通過人員【10 月 1 日～27 日】 定期 +1.0%、定期外 +1.6%、合計 +1.3% ※ 前年同日比
小田急百貨店	売上高【10 月 1 日～26 日】 新宿店 △0.4%、町田店 +4.6%、ふじさわ +1.0% ※ 前年同日比
シティホテル	客室稼働率【10 月 1 日～26 日】 ホテルセンチュリーサザンタワー 92.0%
箱根エリア	箱根湯本駅改札通過人員【10 月 1 日～26 日】 平日 △3%程度、土休日 +6%程度 ※ 前年同日比
	箱根リゾートホテルの客室稼働率【10 月 1 日～26 日】 80～90%程度で推移 ※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、はつはな、箱根ゆとわ、HOTEL CLAD

Q2. 決算説明資料における「観光収益」とはどのようなものか。

- ・ 当社グループ全体の観光に関する営業収益および免税取扱高を合算し、「観光収益」と定義している。足元では交通業（箱根・湘南エリアに関する定期外収入や特急料金収入等）が 5 割程度、ホテル業が 2 割程度であり、小売やリゾート人材派遣業等も含まれている。
- ・ 2025 年度 2Q の観光収益は、対前年で鉄道業やバス業の輸送人員増等による増収があったものの、百貨店業等において前年度に決算期変更を行った影響や免税売上の不調により、前年並みとなった。

中間期	観光収益 (単位：億円)		通期	観光収益 (単位：億円)	
		うちインバウンド			うちインバウンド
2024 年度 (実績)	384	125	2024 年度 (実績)	789	242
2025 年度 (実績)	384	117	2025 年度 (予想)	791	226
			2030 年度 (目標)	1,200	450

Q3. 観光需要（特にインバウンド）の現状や今後の施策は。

【現状】

- ・ 2025 年度 2Q の箱根フリーパスの販売枚数は、2Q として過去最高を更新した（前年比+14.5%）ほか、インバウンド向け販売枚数も過去最高を更新した（前年比+16.9%）。
- ・ インバウンドの市場別では、前年に比べ、東アジアが伸び悩んだ一方で、欧米豪は増加し、市場別ではアメリカ、中国、フランスが TOP3 を占めた。
- ・ 2030 年度には、旺盛なインバウンド需要を取り込むことなどにより、通期で販売枚数 100 万枚を目指している。

年度	箱根フリーパス販売枚数 (単位：千枚)		
		うちインバウンド	割合
2018 年度 2Q	449	134	29.8%
2024 年度 2Q	408	164	40.1%
2025 年度 2Q	467	191	41.0%

※ **太字**：過去最高

- ・ 箱根エリアのホテルについては、観光需要を着実に取り込み客室稼働率は概ね上昇傾向であるものの、災害予言等の影響により外国人宿泊者比率については一時伸び悩みも見られた。

【今後の施策】

- ・ 2025 年 12 月 15 日には旧 箱根レイクホテルを全面リノベーションした愛犬特化型ホテル「RETONA HAKONE」（リトナ ハコネ）のオープンを予定し、国内需要のさらなる取り込みを目指す。
- ・ このほか、箱根ハイランドホテルやホテルセンチュリーサザンタワーについてもリニューアルを予定しており、付加価値を高めることで国内需要に加え旺盛なインバウンド需要を取り込む。
- ・ 2025 年秋以降、小田急グループでは各社でクレジットカード等によるタッチ決済サービスを拡大し、従来からの江の島・鎌倉に加え、箱根での拡充や、大山での新規展開を

予定している。また、タッチ決済による相互乗り継ぎ利用（2026 年春以降予定）に向けた検討を関東の鉄道事業者 11 社局で開始している。お客さまの利便性向上に加え、旺盛な旅客需要の受け皿を強化することにも寄与するものと考えている。

（参考）ニュースリリース

[愛犬特化型ホテル「RETONA HAKONE」の開業日決定](#)（2025/4/14）

[2025 年秋以降、小田急グループ 6 社でクレジットカードやデビットカード等によるタッチ決済サービスを拡大！](#)
（2025/6/16）

[関東の鉄道事業者 11 社局の路線を対象とした、クレジットカード等のタッチ決済による後払い乗車サービスの相互利用に向けた検討を開始します](#)（2025/10/29）

Q4. 小田急電鉄 鉄道事業におけるホームドア設置の進捗状況は。

- ・ バリアフリー料金制度を活用し、2032 年度までに新宿から本厚木までの全駅と中央林間、大和、藤沢への設置を進めており、2025 年度は新たに 5 駅で供用開始する見込みである。
- ・ それ以外の駅についても、転落事故の発生状況、視覚障害者の利用状況や整備要望、ホームの混雑状況等を踏まえ、整備の必要性を検討していく。

（参考）ホームドアの整備状況と計画

整備完了予定時期	箇所（駅・番線数は累計）	
① 整備済み (2025 年 10 月末時点)	17 駅 50 番線	新宿（特急ホーム除く）、代々木八幡、代々木上原、東北沢、下北沢、世田谷代田、梅ヶ丘、豪徳寺、千歳船橋、喜多見、登戸、町田、相模大野、海老名、本厚木、中央林間、大和
② 2025 年度	19 駅 54 番線	祖師ヶ谷大蔵、狛江
③ 2026 年度	21 駅 60 番線	経堂※、和泉多摩川※
④ 2027 年度	25 駅 73 番線	南新宿※、成城学園前※、鶴川※、藤沢※
⑤ 2028 年度	27 駅 79 番線	参宮橋※、向ヶ丘遊園※
⑥ 2032 年度まで（計画）	37 駅 107 番線	新宿～本厚木のうち①～⑤を除く全駅

※ 自治体からの補助金交付状況や工事の進捗等により変更となる場合がある。

Q5. グループ各社の運賃改定の状況は。

- ・ 2024 年度以降に行った運賃改定の状況は下表の通りとなっている。
- ・ 2025 年 10 月 1 日からの改定は、箱根登山バスの分を除き、5 月に公表した通期業績予想に織り込まれている。

(参考) 主な運賃改定の状況と計画

会社名	概算影響額 ^{※1} (億円)		実施日
	2024 年度 (実績)	2025 年度 (予想)	
小田急バス (均一運賃地区 ^{※2} 等)	8.1	9.8	2024 年 6 月 1 日
江ノ電バス	軽微	1.2	2025 年 3 月 15 日
小田急ハイウェイバス (箱根線)	－	0.6	4 月 1 日
小田急箱根 (観光船・ロープウェイ等)	－	8.0	10 月 1 日
箱根登山バス	－	1.0	10 月 1 日
小田急バス (均一運賃地区 ^{※2} 等)	－	1.9	10 月 1 日

※1 影響額は、運賃改定を実施しなかった場合との比較

※2 東京都区内・川崎横浜市内の一部

- ・ 2023 年度以前に鉄道業やその他（タクシー）においても運賃改定等を既に実施しており、引き続き、持続可能な事業運営体制の構築を図る中で、適切な時期での運賃改定を検討していく。

Q6. 百貨店業における免税販売の状況は。

- ・ 中国国内の景気停滞や円高基調の継続等を背景とした高額品の買い控えが続いている。
- ・ 足元の売上改善に向けて、目下で購買動向が鈍化している中国人客以外にもアプローチを広げるため、優待券の配布対象を見直すほか、旅行代理店と連携したインバウンド向けアテンドサービス等の施策を実施し、認知拡大や売上増加を図る。

Q7. 各ホテルの 11 月以降の予約状況は。

〈シティホテル〉

- ・ 客室稼働率は、11 月、12 月ともに 90%程度を想定している。
- ・ 客室単価は、秋の紅葉シーズンから年末にかけて上昇傾向を示し、11 月・12 月ともに 2025 年度 1Q を上回る水準で推移する見込みである。

〈箱根リゾートホテル※〉

- ・ 客室稼働率は、11月は90%程度、12月は80%程度と想定している。
- ・ 客室単価は、秋の紅葉シーズンから年末にかけて上昇傾向を示し、11月・12月ともに2025年度1Qを上回る水準で推移する見込みである。
- ・ 箱根ハイランドホテルは、5月7日以降、リニューアルに伴い全館長期休館中である。

※ 箱根リゾートホテル：山のホテル、はつはな、箱根ゆとわ、HOTEL CLAD

注意事項

本資料に記載されている、計画、見通し、戦略のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しであり、これらは公表時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。

したがって、実際の業績は経済情勢等の変化によって業績見通しとは異なる可能性があります。

以 上